

## 第二次審査（公開によるプレゼンテーション及びダイアログ）

### 傍聴者アンケート結果 ※一部公表

傍聴者 89 人（うちアンケート提出者 64 人、回収率 71.9%）

#### 1. 有限会社 マル・アーキテクチャの提案について

- ・「ツリー」→わかりやすかった。
- ・対話も含めてみんなで参加してつくるというイメージがしやすく信頼できると思った。
- ・「ツリー」が明解だったが、その具体的なイメージが湧きにくかった。「ツリー」という割には、スケールの大き過ぎる空間ができそうな感じがする。
- ・目に見て楽しく、対話でのキャッチボールも楽しく、市民と一緒に悩み考えてくれる期待が持てた。質問への反応が柔らかく、また奥深い印象があった。
- ・今後の事業展開に期待が持てる。地域の活性化に希望が持てる。
- ・「ツリー」があることで図書館の拡張性を阻害するのではないかと感じた。
- ・「ツリー」スペースによるオープンスペースの使い方が良いと思った。
- ・「ツリー」をイメージしての提案は面白い視点だと思った。小千谷の大雪時の対応等が示されなかった点が残念だった。
- ・ノーマンメンテナンスではひたすら劣化していくだけ。むしろ、スーパーハイメンテナンスをしてほしい。
- ・「ツリー」でカテゴリ化した構想は興味がある一方で、立地全体でのゾーニングを考えた際には駐車場を建物東側に設置していることが使い方を限定してしまいそうに感じた。
- ・何もかもがこれからという感じでワクワクした。自分の中からもあれやこれやと考えが生まれてきて楽しかった。
- ・雪資源の利用は良い。
- ・「木（ツリー）」という概念とゾーニングで説明され、明るさや風を感じる絵を多用し思いを伝えようとしている。ダイアログ（対話）中もプレゼン用画面を話とうまくリンクしていた。
- ・抽象的であった。
- ・チームの雰囲気良かった。色々な話（対話）が出来そうだと感じた。
- ・新しい公共施設のあり方・考え方が興味深い。ただし、ランニングコストが高くなりそう。
- ・トップバッターでありながら、審査委員含め、建設的な会話をくり出していたのは、すごかった。各担当者もプロフェッショナルでありながら協調性があった。現地に足を運ぶ熱意を感じた。
- ・提案チームの雰囲気が楽しそう。「ツリー」の考え方は面白い。屋根・平面的に雪が降ったら大変そうである。
- ・わかりやすかった。小千谷を良く勉強していると思った。
- ・「ツリー」といったコンセプトとデザイン性は目新しさを感じてよかった。施設としては魅力的だが維持管理が難しそうである。
- ・アイコンとして「ツリー」が外部にも拡張されるアイディアは、まちの特徴ともなるユニークなアイディアである。除雪はどうなるか？
- ・難しいテーマに対して、ビジュアルでわかりやすい提案だった。
- ・楽しそうで夢物語のようである。ただ地味な市民性を思うと、少し浮ついたような、離れた空間の印象を受ける。これからリビングラボなどで話を詰めていければ…と思う。
- ・図書館をコアとして市民との対話、情報発信の場とした発想は良い。多様な年齢層、目的を持たない市民の立ち寄り等、利用者が限定されない施設を望む。子どもたちがサービスを受けるだけでなく、提供側として又はキャストとして自己有用感が得られる施設を望む。

- ・若い発想で、わかりやすい提案だった。
- ・多方面からの観点は良いと思ったが、本来の図書館としての機能が無く、市民協働センターの建築のプレゼンに聞こえた。
- ・図書館をこれまで使用できていない層も足を運びたくなるようなデザインだった。
- ・具体性が弱い。どんなものができるかイメージできない。考えは良い。やる気は感じる。利雪の考えが甘いように感じた
- ・みんなが集まる場としての提案が具体的で良かった。雪室の提案については小千谷で現実的かは疑問。
- ・最後まで図書館オンリーの話しになったのは不満。

## 2. 西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体の提案について

- ・屋内広場と「カドニワ」→災害時の避難場所にする考えが一致していて嬉しい。
- ・実施方針として「わたしの図書館」を掲げ、市民が私事として参加するプロセスの考えをしっかりと持ち、また、建築空間もきちんと考えられていると思った。「文化を掘り下げる」というお話は素敵である。
- ・2階の面白がいまいち伝わらなかった。従来の図書館との違いがあるのかももう少し聞いてみたかった。
- ・理論やコンセプトについて提案書をじっくり読んでみたかった。
- ・固まっている案のように感じた。
- ・主階が2階であることに疑問を感じた。
- ・取り組みの体制、細分化することでの関わりやすさと空間がリンクしていることが興味深かった。外部の「ニワ」のつくり方もそれぞれ個性が生まれるように感じた。
- ・スペースの作り方が自由にできるのが良い。直角三角形の土地をそれぞれに生かすアイディアは面白いが、デッドスペースが出ないか心配である。その分、地震に強く安定感があるなら賛成したい。
- ・基本コンセプトをしっかりと作り、それを基に提案されている。雪国の大雪時の対応をもう少し考えて示されればより良かったのではないかな。非常に完成度が高く、自由度もある提案だったと思う。
- ・地味だけど現実的。
- ・今のハイスペックなシステムを導入するよりも、今後の変化、進化していくデジタル分野においては、ある程度フリーな提案に現実的なメリットを感じた。
- ・未来を語り合いにくい感じ。堅実なイメージ。
- ・経験と綿密な調査に基づいた安心感・信頼感のあるプレゼンだった。園芸の専門家もメンバーにいるとのことだが、全メンバーを紹介して欲しかった。
- ・三角形プランでわかりやすかったが、空間としての固さが残った。
- ・配置が分かりやすいので利用しやすそう。
- ・やや具体的、実現性有り、面白みは不足。
- ・計画を進めるうえで、かなり専門的な話が聞けそうだと感じた。頼りになりそうなチームだと思った。
- ・過去から未来へ図書館における情報の時間軸の考え方が参考になった。
- ・一つのオープンスペースをグラデーション的に情報をつなげる考え方が良かった。
- ・考え方がしっかりしている。雪に対して考えられている。チームの雰囲気も堅い。
- ・三角形の建物内に角を中心とした棲み分けがされていて、利用の仕方が分かりやすいと思う。マトリックスが事細かに記されていたのでもっと見てみたかった。
- ・市民が図書館の発案、運営、維持に関わりやすそうだと楽しみになる提案だった。とてもわかりやすかった。
- ・一つの大きい外部空間を考えるのではなく、3つの特性の異なる外部空間を提案していて面白いと思った。
- ・「カドニワ」に面するアーケードは建物がないと雪が吹き込み大変になる。対策は？
- ・実現性の高い案だと思った。

- ・提案に対しての姿勢は良く理解できた。もう少しデザインに対しての議論があってもよかった。
- ・本質的な図書館のあり方の議論をもう少し市民としたい事業者であった。
- ・建築や導線に関しては良いと思う。また地域文化の掘り起こしやつながりなどは好印象。
- ・図書館としてのあり方まで考えられていると思った。
- ・設計屋さんのプレゼンが玄人ぽくわかりやすい。全体的に説明に安定感があった。
- ・イメージがしやすかった。ワクワクできる提案であった。雪の活用が少ない。構造の検討・提案は良かった。
- ・図書館を機能的に使い分けできるよう考えられていると思う。
- ・「源を探る」という郷土資料館についての対話が面白かった。

### 3. 株式会社 平田晃久建築設計事務所の提案について

- ・「フロート」／「アンカー」／「ルーフ」の論法は明確で良い。
- ・「フロート」は面白かった。ただ空間の景色としては、書架の並んだ図書館となりそうなのでそうならないようにしてほしい。
- ・書棚が動く提案に驚きました。理由として、施設運営者・利用者の使いやすさや楽しさを考えてのことだそうので、優しさも感じた（柔軟に対応するという姿勢にも）。
- ・レール以外の話ももう少し掘り下げて欲しかった。
- ・建築の組み立てが明解と感じた。ただし、デジタル空間について言及がなかった。
- ・可動書架のアイデアが新しい図書館の可能性を感じた。
- ・「フロート」と「アンカー」、自由空間の創出は良いのではないか。
- ・図書館を季節で運営を考えることに賛成。本の移動や人の動きを考えていることが面白いと思う。育てる部分は「みんなの力で」となっていてリーダー次第になりそう。
- ・コンセプトがしっかりしていて良かったと思う。雪の活用方法や屋上スペースの活用、可動棚を取り入れた司書の方々の仕事量の削減など、具体的な提案がしっかりしていたと思う。ただ、自由度の部分が「？」と思う点が多々あったように思った。
- ・「フロート」、「アンカー」、「ルーフ」を組み合わせで織り込まれた空間は、興味と共に深く入り込んでいける小路と井戸端の空間となり、市民活動が生まれる可能性を感じた。
- ・頼れるイメージ、話し方、受け止めるキャパシティを感じた。
- ・ハードの可能性については大変興味深かった。今後の市民との協働でつくるという点に関しては、太田市の経験や潜在能力が十分に伝わらなかった気がする。
- ・わかりやすいスキームである。閉架式＋開架式＋移動式の組み合わせが面白かった。特に移動式書棚にはフレッシュさを感じた。
- ・コンセプトは一番面白い魅力的。
- ・一番現実的であった。
- ・「フロート」形式は必要か。理屈的過ぎる。雪国ではどうか。
- ・経験を踏まえ、意見を取り入れて設計してもらえそうなチームだと感じた。
- ・「フロート」の考え方が新しい。運用面での課題（雪国であるということ）もあるが、面白い考え方。
- ・「フロート」の考え方、書架が1列でしか動かないなら大きな創造性や連想をイメージさせる多様なリンクを生むことは、実際には難しいのではないかと感じた（館内にレールがあるのは少し古臭い）。
- ・わかり易いキーワードを用いた提案は良かった。プレゼンもきれいで未来を感じる。新しさを持ちながら柔軟性もありそう。
- ・動く書棚という考えが面白かった。機能を有効に使うには運営する側もその都度移動が大変と思うし、利用する側も慣れるまでに時間がかかりそうだと感じた。

- ・小千谷の自然と歴史、文化を知ってくださることは嬉しい。ただ、本町商店街はシャッターがどんどん下りていき、商店街通りとは言えない。その中でこの新しい場所だけがにぎやかになるのも不自然さが生まれるような気がする。うまく観光につなげて経済効果が生まれてくるといいなと思う。
- ・言葉が難しくてどんな建物でどんな活用ができるのかイメージしづらかった。図書館以外の活用が分かりづらい。
- ・小千谷の四季を考えられた計画。とても良い。けれど具体的な建物の図が今ひとつ分からない気がした。小千谷全体を考えられた案であり、しっかり話し合えば素晴らしいと思う。
- ・図書館の動く棚と現実がよく理解できない。
- ・最も図書館らしい内容だが、複合施設としての議論があまり無かった。
- ・未来志向であるのは良いところだが、少しイメージしづらい感じであった。
- ・図書館好きにはたまらない設計だった。
- ・可動書棚は面白いが、全体にコンセプトがわかりづらい。
- ・雪室で空調利用はどの程度できるのか。その他空調はどのように考えているか。再生エネルギー利用の考えは？
- ・書架を移動することで、用途に応じたスペースを作るという考えが面白かった。

#### 4. 第二次審査（公開プレゼンテーション及びダイアログ）の形式全体について

- ・この方法は良いと思う。
- ・小千谷の実際の暮らしに紐付いた生の議論が交わされて、とても興味深かった。このような場を開いていただいたことに感謝する。
- ・70分は長いかと思っていたが丁度良かった。審査委員同士の対話もあり、これに市民が参加できて良かった。
- ・プレゼンテーションはスクリーンがもう少し大きいと良かった。会場の広さ、距離に見合っていない。ダイアログは、質疑応答というよりは会議・打合せのようで新鮮だった。しかしながら70分というのは長いように感じた。
- ・90分ずっとたっぷりお話が聞けて大満足である。審査委員の方々が、市民の意見を素直に代弁し投げかけてくれたことが嬉しかった。
- ・対話は良いと思ったが、全員に同じ質問をしても良いと感じた。話の内容にムラがあると思った。
- ・会場づくり等工夫されているように感じた。
- ・プレゼンテーションのウェイトを増して欲しいと感じた。
- ・プレゼンテーション時間が短く感じた。提案の理解が難しかった。ダイアログはもう少し短くても良かった。
- ・熱意・知識を審査するには良い方法。
- ・それぞれ独自のプレゼンテーションで良かった。その分何を一番に考えているかが分かりにくく判断に迷う面も多かった。
- ・各担当者の考え方や気持ちを実際に感じる事ができて良かったと思う。
- ・非常に新鮮だった。
- ・三者三様の視点がありワクワクするお話だった。
- ・このようなオープンな場で普段聞くことができないような方たちの話を聞くことができ興味深い時間だった。希望としては事前に次第がわかると予定が組み易い。オンラインでライブ配信して市内外にいる小千谷の若い人、建築を営んでいる人、土日に聞くことができない人にも聞いてもらいたいと思った。
- ・オンラインを使って配信したら良いと思った。

- ・お昼休み時間が短かった。
- ・事前に定型文の質問が決まっていないからこそ、それぞれの提案者に対して的確な対話となっていた。
- ・パートナー選考という感じで、プレゼンテーションだけでなくダイアログで、スタンス、コンセプト、人柄を感じることができ、大変よい形式だと思った。
- ・大変良い公開審査だったと思う。デザインのこの段階でのプレゼンテーションはかなり大変だと感じられた。
- ・70分のダイアログは心配だったが面白かった。
- ・90人の傍聴者の人相（職相）が申込式なので少し偏ったかなと思った。審査の結果が楽しみである。
- ・長時間で疲れたが勉強になった。聞いて良かった。30者から選ばれた3者の基準が不明である。
- ・大変有意義な楽しい時間だった。
- ・一番基本的な考え方だが、市民と共につくっていく点において素晴らしい。
- ・良かったと思う。できれば、10分くらい傍聴者・市民の意見を拾えれば良かった。
- ・少しでも市民の意見を聞く時間があるといい。
- ・提案者の考え方を深いところまで聞けてとても良いと思った。
- ・提案書を見れないのが残念。何か見れる方法があるはず。
- ・一方的な質疑応答ではなく、対話することで進めていくダイアログが非常に分かりやすく良かったと思う。
- ・開放的な審査でとても良いと思った。このような場が日本全体にあれば良いと思った。
- ・対話形式が進むため、提案者の人柄・考え方など深く聞き出すことができ良かったと思うが、場の雰囲気があとになればなるだけ、場全体の慣れが良くなるため、提案者が後ろになればなるだけ有利ではないか？
- ・市議会議場を借りるなど市民が会場に行かなくてもオンライン等で見られると良かったと思う（議場は2階から見やすい）。プロジェクターを2～3箇所を設置して欲しかった。
- ・長時間であったが今までに体験したことのない形式で良かった。
- ・20分のプレゼンテーション、70分のダイアログは、審査委員のおかげもあり、適切な配分であったように思う。個人的には、小分けにダイアログの論点が決められていると良いと思った。
- ・各社の社員の特性（人間性、対話能力）が見えた。
- ・公募型は透明性があり良いと思う。
- ・提案者はかなり具体的な構想を持っているので、資料でも良いのもう少し開示してもらえると良かった。やり方（形式）は良かったと思う。

## 5. 本事業に期待すること

- ・大いに期待している。
- ・すべてに期待している。役所の人々もガンバレ！
- ・市民の意見が反映されつつも、チャレンジングで見たことのない図書館になることを期待している。多くの意見を取り入れると、どうしても既視感のある普通なものになっていくことが多いので、市民のみなさんにもぜひチャレンジする気持ちを持って欲しい。
- ・リビングラボも楽しみにしているし、出来上がった施設は、大切にみんなで育てていけたら良いと思う。
- ・こんな時代だからこそ、人が集まる公共施設になるといい。
- ・今、図書館を子どもと使っているところである。今後、図書館の枠を超えて使えるツールとして、施設ができた事業が進むことを期待したい。
- ・オンリーワンの図書館を目指して欲しい。
- ・次世代の図書館、情報空間をつかってほしい。
- ・他の団体と競争することなく地道に進めて欲しい。この事業で文化都市小千谷で名を上げようとは思わず保険をかけて安全に考えてやってほしい。他人マネでなく10年後いや100年後までしっかり続くように。

- ・これからの小千谷市の顔になる施設ができればと期待するが、身の丈にあった施設でないといけないと思う。高望みはしないでよい。
- ・今までの小千谷らしくない事業であり期待している。
- ・更なるオープンの場合、活気のある時間を引き続きお願いしたい。
- ・活気ある施設になることを願っている。
- ・自分の未来に対して自分で動くひとがこのまちに増えていくこと。
- ・リビングラボが何かを生み出していくことに期待している。
- ・ぜひ新しい図書館の概念を具現化して欲しい。
- ・プロポーザル公開審査に参加させていただき感謝している。実現される日が楽しみである。
- ・新しい図書館を実現してほしい。
- ・未来につながる持続可能な図書館の実現を期待する。
- ・これまでに例のないプロセスで、必ず他にはない良いものができる。夢がある。
- ・市民がつくる図書館、新しい取組み・チャレンジ応援しています。
- ・これからの素晴らしい公共空間、図書館ができることを楽しみにしている。
- ・大変興味深い内容だった。図書館とは何なのか考えさせられた。
- ・全年齢層の人が使い分けできる図書館になって欲しい限りである。
- ・今までになかったような新時代の図書館ができることを期待する（仙台メディアテークのような新しいコンセプトによるもの）。
- ・常に人が集まれる場所、本町商店街とのつながりがもっとできるといい。市内各サークル団体、高校部活等の発表の場として使えたらいいと思う。
- ・図書館を中心とし駅から商店街の発展をもとに、小千谷市民がいつでも行ったり来たりできるような（無料バスなど）計画、また中心から外で商売している方々にも関わられるような計画。小千谷全体がにぎやかに（人と人が行き交えば他市からも人が来るのでは）。
- ・小千谷のランドマークになると期待している。
- ・地元の住民や、建設業界が盛り上がるようにして欲しい。
- ・対話を大事に進めて欲しい。
- ・観光PRの拠点にもして欲しい。
- ・若者が帰ってくる、町を越えて近隣市町村も栄えるようになってほしい。
- ・市民に喜ばれる施設になることを期待する。
- ・コスト（イニシャル+ランニング）低減の提案も欲しい。
- ・とにかくこの事業が成功することが小千谷の未来を示すと思う。市内外から集客できる魅力ある設計をしてもらいたい。
- ・市民協働の底上げ。多世代の居場所・交流・活性化の場となること（特に若者の居場所）
- ・どの提案になっても、官民が一緒になって小千谷に素晴らしい図書館を築いていってほしいと願っている。
- ・高齢化の進んでいる小千谷市なので、そういう人たちが気軽に立ち寄れる施設にしてほしい。図書館にはゆったりと閲覧できる空間を作ってほしい。信濃川の絶景を眺められる長所を是非生かした作りになってもらいたい。

## 6. その他

- ・今後も県内、他の市でも公開プロポーザルが行われることに期待。政治マターで選ばないでほしい。
- ・審査も公開でやって欲しかった。提案書は後日でよいのでみたい。また、選定後の竣工までのプロセスも随時ホームページなどに掲載して欲しい。

- ・どれも素晴らしい案。維持管理費が不安。
- ・3年後を楽しみにしながら今の生活をきちんとしていきたい。ボランティアとか必要であったらどんどん呼びかけてほしい。お手伝いしたいことが生きる計画をお願いします。
- ・小千谷市の本事業に対する本気度が伝わってきた。
- ・市外の人間まで傍聴させていただきありがたかった。
- ・令和6年度には、3万2千人の町となる小千谷市。市の中心市街地を一施設に背負わせるのは重すぎる。
- ・完成後の運営についても状況を追ってみたいと感じた。
- ・子育て支援、交流の機能についての意見交換がもっとあっても良かった。
- ・小千谷市民はとても忙しい。11月初めまで田畑、これが終わると雪のための囲い仕事、12月～2月は雪始末、雪消えと共に田畑の始まり。時間があれば3者の提案も楽しめるが、市民が施設を使いこなすのは難しい。
- ・できたら必ず訪れたい。
- ・若い人たちが故郷に戻り、仕事をしたくなるようなこともこれから大切である。そのあたりも含め、若い世代が関心を持てる計画であってほしい。

以上